

農林水産ビジョン(仮称)検討委員会等で頂いた御意見及びその対応

| No | P | ご意見 | 対応（修正案） |
|----|----|--------------------------------|---|
| 1 | 17 | 世界を席卷は、海外向けだけでなく、インバウンドも含めるべき | 量的販売網の確保やブランド価値の向上の面で成果を挙げてきた京都の農林水産物の府内戦略、首都圏戦略に加え、京野菜や果樹等の園芸作物の世界市場への展開を強化し、輸出金額を倍増させます。 当面は京都の農林水産物をセットで発信し、その認知度向上に注力することとし、購買力があり、距離が近く、食文化の親和性も高い、香港、シンガポール、台湾などアジア諸国を主要なターゲットとして現地飲食店や小売店、 また、増加を続けるインバウンドに対して売込みを促進します。 |
| 2 | 21 | 未来を担う子どもへのアプローチの記載が必要 | 農林水産業が身近な職業として子どもたちに認知され人気の職業になるよう、農林水産技術センター、農業改良普及センター、家畜保健衛生所などがオープンキャンパスや夏休みに合わせたイベント、 小・中学校への出前授業を実施するとともに、農林漁業者が実施する体験型イベントを支援します。 |
| 3 | 4 | 子どもが魅力的で職業として選択したいと思えるという観点が必要 | そして、様々な分野の方々が集い、調査・研究などで連携する拠点とし、熱意や意欲の融合により、新たなビジネスが創出されるなど、 農林水産業、農山漁村 が総合的に活性化する取組を進めるとともに、これらの取組と 農林水産業、農山漁村の魅力 を子どもを含めて あらゆる世代・立場の方々に対し 一体的にPRすることで、以下に示すような姿を実現してまいります。 |
| 4 | 9 | 気候変動について記載が必要 | 平成30年の台風等による風倒木被害をはじめとして、山地災害が頻発する中、 気候変動の影響によるとも考えられる豪雨や台風 による土砂災害などの発生リスクを軽減するため、気候変動の対応策として治山施設や、荒廃森林の整備を推進するとともに、山地災害関連情報を地域住民と適切に共有する仕組みづくりや、鉄道軌道等の重要インフラ周辺森林の整備を、ソフト、ハード面から防災、減災対策を進め、府民の暮らしの安心・安全を確保することが必要です。 |
| 5 | 35 | 〃 | 地球規模での暑熱等の異常気象といった 気候変動 の問題に伴い、食料生産への影響も懸念されています。既に、気温の上昇等により米をはじめ各種農作物の品質が低下し、病害虫・雑草の分布が拡大しているほか、水温上昇により回遊魚の生態地域が変化するなどの影響が各地で顕在化しています。 |

| No | P | ご意見 | 対応（修正案） |
|----|----|---|--|
| 6 | 19 | 農業用ビニールなどに対する対応についても記載が必要 | 欧州をはじめ世界中で流通・小売取引のスタンダードになりつつある「GLOBAL G.A.P.」を府内で初めて取得した府立高校等のモデル農場での取組を核とし、府内農業者に大幅に拡大します。また、有機JASの取得などオーガニック等の世界的なニーズの高まりへの対応や、 農業分野から排出されるプラスチック類の資源としての有効利用など、「環境にやさしい農業」を推進します。 |
| 7 | 20 | 計画の実施には農業改良普及センターの位置づけが大変重要だが、文章中にほとんど書かれていないこと。京都府らしさを出すためには、現場の農家と関わる普及センターの充実が不可欠だと思う。 | 後継者不足による廃業が懸念されることを踏まえ、 農業改良普及センターを中心に組織された「京の農業応援隊」 や新たに設ける「京の畜産応援隊（仮称）」をはじめとして、林業や水産業における伴走支援体制を確立し、経営管理や信用力向上の観点から法人化を集中的に支援します。 |
| 8 | 20 | 次世代の担い手確保として、農業大学校や林業大学校との連携だけでなく、府立高校への働きかけも必要ではないか。 | 「農業大学校」、「林業大学校」、「海の民学舎」といった農・林・水各分野への新規就業の取組についてICT技術の活用など時代に合った適切なカリキュラムに見直し、引き続き府内外への情報発信、学生獲得に努めます。さらに、茶業研究所を核とした「宇治茶実践型学舎」や畜産センターを核とした畜産人材育成研修制度の創設など、技術や経営面のレベルの高さ等から、特に人材不足が深刻な茶業、酪農・肉用牛などの分野において後継者が確保できるよう、京都府の試験研究機関や関係市町村等と連携、意欲ある担い手の育成・確保を図ります。 また、府域全体に存在する農林水産に関する職業系学科で学ぶ府立高校生等に対して先進的な経営体との意見交換や現場体験をとおして農林水産業の魅力を伝えることで次代の担い手の育成を図ります。 |